
隣の隣の宰相様

尾黒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隣の隣の宰相様

【Nコード】

N9644Q

【作者名】

尾黒

【あらすじ】

我が家のお隣さんの異世界交流に、私も参加しています。短編「隣の王様」の三条家。その隣家の娘さんも異世界人と交流します。

会話文のみの軽すぎる異世界相互トリップ短編。

「つーばめちゃん！」

「はーあーいー！！」

「おおおお！！燕^{いはしめ}！それは、アレだな！先日^{さきひ}のトト□の……！！」

「ちょ、うるさいよ、ゲオルグ！泉^{いずみ}が迎えに来たんだったの！泉ー！もうちょっとで顔完成するから！あと、あと、チークとマスカラと！アレとアレで……」

「うん。燕が時間通りに用意できてるとは思ってないから。迎えに来るって予告した時間はアンタの準備時間込みの時間だから。」

「どおりで！映画始まる時間に比べて指定時間が早いと思ってたー！ー！！うああん！待ってなさいよ！すぐ終わるんだからああああ！」

「はいはい。……あ、ゲオルグさん。ちょうどよかった、これ、お土産。貰い物なんだけど、青森県産のりんご。うちじゃもう消費しきれないから、三条家とゲオルグさんちで食べてくれると嬉しいな。ゲオルグさんのところはお城だから人がいっぱいいいそうだし。」

「ありがたくいただく。我が城の厨房を預るコック長は菓子作りがことのほか得意でな。何か作らせてみよう。それはそうと、燕の準備が整うまで茶でもどうだ？」

「いただきます。……あれ、小夜子ママは？いつもならテレビ見る時間じゃない？」

「うむ。今日は夫婦二人きりで湖までドライブに行くと言って、早朝からいないのだ。」

「相変わらず仲のいいご夫婦だねえ。ゲオルグさんは今日休み？」

「いや……うむ、休み、という概念は存在しない職業だからして……」

「サボっちゃったんだ。」

「けして、サボっているわけではなくだな、息抜きと言つか、なんというか、」

「燕に会いたくて来ちゃった？」

「うむ、燕に……いやっ、そうではなく！サボリだ！」

「……そうですか、サボリ、ですか。我が国の最高権力者ともあるうお方が。」

「うむ、サボ……ダプター……何故此处に……」

「泉、久しぶりですね。お元気そうで何よりです。」

「ダプターさんこそ、いつもどおり大変そうね。宰相なのに王様のお世話して鏡を毎回行ったり来たりなんて、激務だねえ。」

「い、泉！お前、ダプターが来ていた事に気づいていたな！？」

「うん。鏡から出てくるところをバッチリ見たからね。」

「何故教えなかった！？」

「え……面白そうだったからだけど。」

「泉いいい！！」

「王よ、ご自分の怠慢を棚に上げて泉に当たらないで頂きたいですね。泉、今日は燕殿とゆつくり楽しんでいらっしやい。来週は『あちら』へ2人で遊びに来るのでしょうか？」

「そのつもり！来週は、ちゃんと時間作っておいてね。」

「ええ、もちろんですとも。そのために今日から我が君には馬車馬の如く働いていただくつもりなのですから。」

「馬車馬……！？ダプター、お前、私に死ねと申すか！？」

「いえ、皆のために、こう思っております。……生きる！」

「も、もののけ、だと……！？ダプター……。私に膝をつかせるとは、お前、なかなかやるな……！」

「泉ー、お待たせ！やっと顔作り終わったよー……って、え？なに？ゲオルグはなんでヒザから崩れ落ちてるの……？」

「ゲオルグさんは……うん、ダプターさんに任せて、私たちはもう行こう。遅れちゃうよ。私、映画は予告から見るのが好きなのよね。」

「わ、やばい、ギリギリかも！んじゃ、ゲオルグ……じゃなくて、ダプターさん、戸締りしてから戻ってね！いつてきまーす！」

「ダプターさん、また来週ね。いつてきます。」

「いつてらっしゃいませ。後のことはお任せを。……さ、王よ。お戻りください。皆手ぐすねひいて待っておりますからね。」

「燕っ！燕ー！！私も行く！行かせてくれー！！」

「お覚悟なさいませ。」

「つばめー！！って、おい！ダプター！鏡の縁に足が引っかかっておる！無理に引っ張るな！いたた！！」

「往生際の悪い……。燕殿に貴様のある事ない事吹き込むぞ、ゴルア。」

「泉がいなくなったとたんに本性出すな！というか、普通、王の首根っこ掴んで引き摺るか！？」

「お前が脱走なんてするからだろうが。俺の手え煩わせやがって。よほどこの俺様にどつきまわされたいようだな、ゲオルグ。」

「ダプター！掃除中の侍女が脅えておる！落ち着け！」

「だったら俺と泉のために仕事しろ。おら！とつと執務室へ行きやがれ！」

「相変わらずのその優男の外見に似合わぬ雄々しさよな。雄々しいというか、ガラが悪いというか。ヤンキーという生き物に似ておるぞ。」

「そうか、よほど燕殿に嫌われたいと見える。どんな捏造してやるうか。」

「突然、仕事をしなくなったぞ！さ、ダプター、早く参れ！」

「……現金な。……ああ、その侍女……確か、メアリですね。怖がらせてしまつて申し訳ありませんでした。このりんごを厨房へ持つて行っていただけますか？もちろん、……見たことは、秘密、ですよ？」

END

しわひめ
志波姫 泉 いずみ

>> 異世界交流中の三条家長女、燕とは幼馴染で隣人。女。

>> 異世界交流の仲間に入れてもらっている。

>> 志波姫家と三条家は家族ぐるみのお付き合い。異世界人たちとも同。

>> 王様と燕との微妙な関係をワクワクしながら眺めている。若干

巻き込まれ気味。

ダプター・オリゲルド

>> 泉から見て異世界にあたる、イリグリア国宰相。男。

>> はいはい脱走する自国の王を、実力行使で引き摺って帰るのが日課になりつつある。

>> 普段は優男風のエキゾチックイケメン。敬語キャラ。

>> 若いころはヤンチャしており、時々垣間見える俺様なヤンキーキャラがチャームポイント。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9644q/>

隣の隣の宰相様

2011年2月19日13時21分発行